



文責 森本 聡一郎

3年間の「自分探しの旅」を感動に満ちたものにしよう
最上級生の自覚をもち、夢の実現のために良いスタートを切ろう！

普通であることを最低限のレベルと心得よう。

その最低限のレベルをどこまで上げていくかが課題です。

1. 「3年生の欠席・遅刻は大きな痛手」

各学校の先生方が3年生のために書く調査書や推薦書には「明るくて元気」なイメージの生徒が常に登場します。しかし、進路関係の書類に関しては、そのようなことは褒められるべきことではなく、当然のことなのです。勝負はそこから先のことで決まるのです。キミにはどんな長所があり、何ができるのかが問われるのです。

ましてや、推薦書に「明るく元気」と書いてあるのに、欠席や遅刻があるようでは全ては台無しです。走り出して勝負どころか、スタートラインに立つ前に勝手にこけてしまうようなものです。もはや、1・2年次の欠席は取り返しがつきませんので、せめて、3年次の欠席は意識して減らさないと、自分を苦しめます。特に入学や入社直近の3年次の欠席は致命的になります。

☆ニュースに注目しておこう

面接対策や小論文対策として時事問題に精通しておくことは準備の基本です。でも、そのような姑息な志からニュースに注意しておくではありません。そもそも、大学入試に立ち向かおうとするなら、新聞レベルの話題にはついて行けるぐらいでないとならないのです。時事ネタ一切ダメという「お子様ランチ」レベルでは、評論や随筆といった、渋く苦い大人の味など理解しようがありません。

受験勉強で忙しくて、いや、受験生だからこそ、新聞は絶対に読むこと。ニュースに目を通すこと。

☆交通事故に注意

4月15日（水）で春の交通安全運動習慣は終了しましたが、児童・生徒の交通事故が多発する時期はまだまだ続きますので用心してください。

新年度の慌ただしさや、春眠の時期、初心者ドライバーの登場、初めての通勤路や通学路…。枚挙に暇がないほど、事故誘因が溢れている時期なのです。

県内では高校生の死亡事故も発生しており、また、本校でも自転車通学性の接触事故は絶えません。被害者にも加害者にもならないように、登下校には十分な注意を払ってください。

また、4月1日から自動車などに適用されていた交通反則通告制度、いわゆる「青切符」制度が自転車にも適用されます。
ながらスマホは反則金12000円です。



2. 「第3学年団、副担任からのメッセージ」

1組副担任 森本祐司先生(英語)

初めまして。今年度3年1組の副担任となりました。どうぞよろしくお願い致します。この1年はみなさんにとって将来を決める大切な年だと思います。すでに卒業後の道を描いている人、これから自分の将来を見つけていく人など、いろいろな人がいるかと思ひます。副担任としてみなさんの進路実現のお手伝いが出来ればと思ひております。進路に関する事はもちろんですが、世間話などなんでも大丈夫です。気軽に話しかけてください。

2組副担任 細見祥平先生(国語)

こんにちは。2組の副担任になりました、細見祥平です。教科は国語ですが、3年生の授業は、2組と4組の古典探究と4組のSTEAM探究Ⅲを担当します。皆さんにとって今年度は高校生活最後の1年になりますが、しっかりと自分と向き合いながら、進路を切り拓いて欲しいと思ひます。よろしくお願い致します！

3組副担任 辻江浩之先生(数学)

今年度より赴任してまいりました辻江浩之と申します。進路ガイダンス部と主に1・2年生と3年生の数学実践を担当します。「進路」は数学とは違い、一つとは限らない「最適解」があります。遠回りに見える選択も、後から意味を持つことがあります。皆さんが自分なりの答えにたどり着けるよう、一緒に考えていければなと思ひます。よろしくお願い致します。

4組副担任 藤原一彦先生(理科)

4組副担任となりました。4組は、理系物理を除いてほぼ初めましてで、away感が強いです。まずは、できるだけ早く名前と顔が一致するようにしたいと思ひます。とにかく、勉強に、部活動に、学校行事に、全力で頑張りましょう。少しだけお手伝いします。

3. 「朝の小テスト始まる」 “小さな努力の積み重ねから得るもの”

4月14日(火)から始まりました。3年生最初の小テスト。合格が目標では意識が低すぎます。満点を目指しましょう。各教科から事前に範囲や内容の説明があります。

火曜日 … 英語(4/14~)

木曜日 … 地歴・数学(4/23~)

金曜日 … 国語(初回のみ4/20)



名言 《^{とが}キツネは^{とが}震を咎める。自分自身を咎めずに》

ニコラス・ブレイク(1904~1972 英国の詩人)

うまくいかないときに、「何でオレ(私)だけが…」と思ひているようではまだまだ青い。自分のことばかりを中心に考えていて、周囲のことを考えていましたか。自分の都合ばかりで行動してはいませんでしたか。果ては、自分以外のものや人に自分の失敗の原因を求めて、それで幸せになれるか。

もう一つ言っておきたいことは、「人間、コケてなんぼ」、「コケたときこそキミの真価が問われるとき」ということ。少子化が進み、生育環境が土の上からコンクリートへと変化する中で、親は子どもに「コケたらアカン」などと言ひ続け、結局はコケ方も知らない子どもたちを作っている。これは筆者が言っているのではありません。もう30年以上も前に、プロ

野球在阪球団のチーム・ドクターであった先生が突然「最近の親はアホや」と怒り始めたときの発言です。「コケ方も知らんような子どもをいっぱい育ててどうするんや！」という発言には相当の説得力がありましたが、さらに少子化の進んだ現在のような大人や筆者の胸にグサグサ刺さる内容です。

キミ達は失敗した時に、そのような世の中を責めますか。自分が思ったように生きられない世の中には生きる価値など感じませんか。そのような自分を育てた保護者や教師を恨みますか。コケ方も知らないというのは、怖い話だと思います。